常磐毎日
発行所
平市田町75
常磐毎日新聞社
電話(代表)2104番
2105番

定評ある
Otuka Shoes
大塚
平駅前☎2077

天気予報

「きょうの関西の風、晴れのち曇り、ときどき雨」南西の風、曇りがちで一時雨
「海上」今晩おだやかだが、後多少風波でる
明日、風波やや強い

提供
隅田川商事株式会社
平2、電5494

大掛りな鉱害調査始まる
臨鉱法の適用へ
あすから15人が三班に分れて

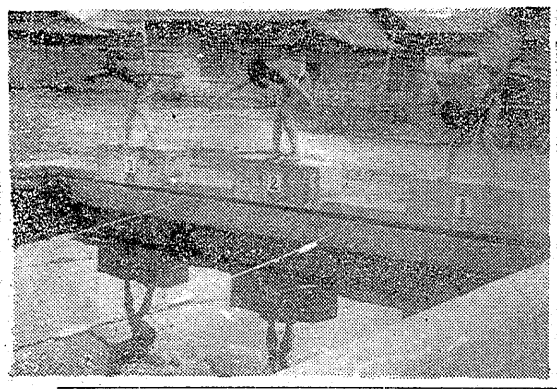
平石炭局の鉱害査定官は鉱業権者（炭鉱）と鉱害市町村からの資料提出が揃わなため遅れていたが、いよいよあす二十日から総勢十五人が三班に分れ、鉱害がどうか不明な個所について現地調査を行う段取りになった。これは三十七年七月までの時限法である臨時鉱害復旧法の切れぬうち常磐地区を同法に指定させる方針で行うことになったものであり、臨査は通産省石炭局の吉田鉱害課長補佐ら二人と九州鉱害復旧事務所からの六人を含む地元通産省東京石炭局平支局の大島支局長を団長とする総勢十五人が耕地、家屋、汚水などの細別の三班に分れて行うことになる。福島、茨城両県の鉱害市町村からの提出資料を検討したうえ、現地を調査し、来月十日までに鑑定書をまとめ、おそくも九月までに臨鉱法の指定地域の大臣許可をうける方針。しかし指定地域の許可をうけるために炭鉱、鉱害地市町村の同意が必要で、いまのところ炭鉱が反対しているため同支局が反対炭鉱を説得して期日までに同意を得るようにするといっている。

炭鉱側 町村側 両面から調査する

あす二十日から行なわれる鉱害事務調査は十五人が三班に分れて行なうが、方法は炭鉱が指定する鉱害地を別途に現地調査する一班は平石炭局の検和田炭業課長ら五人が平地区（平、内郷、常磐、好間、鹿島、小川）は常磐、古河好間、広畑、戸部、旧日曹赤井の炭鉱、二班の国支局、氏家技術課長ら五人は湯本、勿来地区を担当するが、勿来地区では大日本勿来、大昭、三松の三炭鉱の鉱区内を行なう。

困窮者にセーラー服
勿来 大井川さんが贈る

【写真はセーラー服を贈って感謝されている大井川さん】



あす二十日から行なわれる鉱害事務調査は十五人が三班に分れて行なうが、方法は炭鉱が指定する鉱害地を別途に現地調査する一班は平石炭局の検和田炭業課長ら五人が平地区（平、内郷、常磐、好間、鹿島、小川）は常磐、古河好間、広畑、戸部、旧日曹赤井の炭鉱、二班の国支局、氏家技術課長ら五人は湯本、勿来地区を担当するが、勿来地区では大日本勿来、大昭、三松の三炭鉱の鉱区内を行なう。

その人は勿来市植田町本町中村洋服店主大井川俊雄さん。大井川さんは貧困家庭の新入学生の実態を知って、昨年から個人的にセーラー服を贈っていた。大井川さんは以前国鉄勤務からセーラー服を大量に購入し、困っている家庭に贈る計画でいた矢先だったので、自分で知っている生活貧困者数十人に贈った他か、余り十四冨を十三日勿来市福祉事務所に寄託したもの。同事務所では早速市内の貧困家庭に贈ったが、贈られた児童生徒はセーラー服を片手に大喜び。

この大井川さんの善行を知った隣人と関係者は大井川さんの温かい心をたたえている。

大井川さんの話＝私は前から生活困窮者にセーラー服を贈る計画で前国鉄から大量に買っておいた。その良い品物ではないが、昨年から今年にかけて小中商生に個人的に贈っていたが、隣人の口添えで余りの十四冨を勿来市福祉事務所に寄託した。

平三小勝つ
平の剣道大会

県剣道連盟平支部主催の剣道大会は十七日午前九時から平磐道場で開かれ、団体戦で平三小Aチームがそれぞれ優勝した。成績次のとおり。

◇団体▽小学校の部❶平三小Aチーム❷同Bチーム❸平四小▽中学校の部❶平一中Aチーム❷同Bチーム❸四倉中Aチーム▽高校の部❶磐高Aチーム❷平工Aチーム❸湯高Bチーム▽一般の部❶沢渡剣友会❷平鉄道クラブ❸平剣友会

◇個人▽小学校の部❶鈴木正三（平三小）❷箱田一美（同）❸三瓶哲雄（同）▽中学校の部❶荒元（四倉中）❷吉田広司（平一中）❸吉原勝（同）▽高校の部❶佐藤繁俊（平工）❷小野武（同）❸椎名勝雄（磐高）▽三段以下❶田元彰彦（沢渡剣友会）❷湯水酒厚（平鉄道クラブ）❸折笠安和（沢渡剣友会）▽四段五段の部❶佐藤和英（平拘置平支所）❷佐藤勇（平剣友会）❸木村基（平剣友会）

祭りの飾り 緑化に反す
常磐で呼びかく

三月中旬結成した常磐市緑協会（会長白石初太郎氏）では五月七日八日に行われる湯本温泉神社の祭りに飾る山ぶき、つつじ、ふじは山が荒されるばかりでなく元にもどるまでは三、四年もかかるのでやめてほしいと同協会と宿泊放送を通して市民に懇望することになった。

毎年行われる湯泉神社の祭りには街をきれいにするため各家ごとに山から木をきって飾るのが古い習慣になっている。このためせっかく緑協をやってきれいにした山は荒されてしまい元になるまで数年もかかる。というので同会では今から祭りにはこれらの花にかわる造花などやってもらいたいというもの。

愛のわらび取り
大野中級友の旅行資金に

中学校の楽しい修学旅行を目前に、旅行に参加出来ない級友たちのため、同級生が幾らでも金を集めて"楽しい旅行を一緒にゝと助け合い運動を起し関係者から感謝されている。

この美挙は四倉町大野中学校（校長荒川栄民）＝二年生七十八人＝で来る二十一日二泊三日で東京方面の見学に出発するが、同校の修学旅行に参加出来ないという気の毒な生徒がいるため、それでは〝可哀そうだ〟と同級生が協力して徒日放課後、同校近辺の山からわらび、ぜんまいなどの採取を始め一把十円程度で売り、集った金は約千六、七百円にあつたこの好意に先生方も感動され、あとのたりない分は先生方も協力して修学旅行に全生徒が参加することになつた。

生徒たちは一人平均二、三把を採取、集った〝なんまい、わらび〟は約二百把で会社や店に買って貰つたもので、同級生の愛の結晶で楽しい旅行が出来ると生徒たちは大喜びしている。

来月に改選
鮫川土地改良

勿来市植田町にある鮫川堰土地改良区（瀬那是吉氏一氏）の総代会は五月六日行われる。この席で、任期満了となる組合員四十人の（写真は改良を助けるわらぶ取り）

人物

炭鉱離職者援護会
平支部長 西間木金吉

援護会支部が平市に出来て、支部長に誰れがすえるかで県庁関係の部に話題が集っていたが、この人、常磐小学校を卒えただけで日大に一足飛びに入学、法律を学んで弱者救済の為に弁護士になり、その後厚生省にまわって炭鉱課で仕事をしているうちに二十二年十月、出来たての労働省に転任して職安関係を経験するようになったのが縁の下の力持ちだった。

「私たちの仕事は経済の変動によって被害になった炭鉱離職者を援護している関係上、常に出ずっぱりの様な仕事である。いわば縁の下の力持ちだ」と謙虚の事務官で、とにかく興般世帯も経験に二百五十人の査部認定をしている忙しい仕事である。

「まあ縁の下の力持ちでもよいが、離職者にちょっとの間でも寝ばれるだけでも仕甲の喜りを感じる。

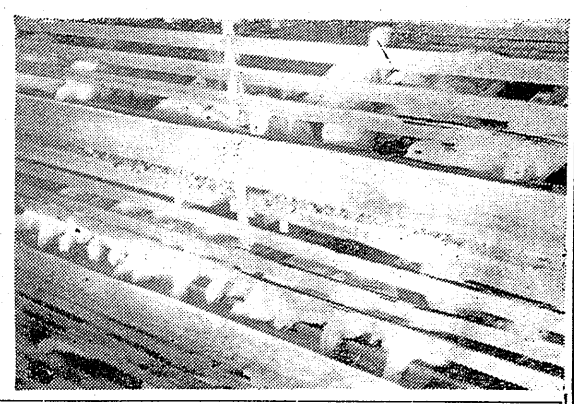
炭鉱離職者は、炭鉱が閉山になるまで炭鉱に働いていたので、ほとんどが中年者で、職安を通して、あるいは縁故で再就職した離職者に対して新しい職場までの援護のめんどうをみるだけである

毎日新聞 常磐版
（第三種郵便物認可）（定価一カ月一部100円●一部売5円）

春ヒナ巣立つ

内郷 好評の温泉利用

内郷市御台場地内のヘルスセンター脇りに新設した内郷市の共同育ち所は三月中旬に完成、温泉熱を利用して約三千羽の姿ヒナを育てていたが、十五日第二回目の八百羽をはじめには一般農家に売られること



羽を市内の各農家に調査（一羽百九十円）した。一斤で最高百羽かとになるので市では予想以上の好成績とみ秋には六千羽の育ちを計画している。

ハエの居ない町に

平市 実施要項など決る

平市では全市をハエ、カのいない町の町造り達成後、隣接地区に衛生運動を拡大、六年後には全市から力とハエを追放する計画をたてている。

◇一般家庭＝❶ゑ床、カ、ハエの成虫、幼虫を徹底的に駆除❷残飯、廃物は残飯物は残飯箱に投入❸建物の出入口に手洗の設備をする

◇飲食店取扱者＝❶食器は煮沸消毒❷飲食品は常時新なものを取扱う❸従業者、従業者の健康診断❹調理場の設備❺残飯容器の設置と十日限度の収容方❻一斤一個❼消毒液は二週間に一回撒布❽雨水等が内部に浸らぬ様にする◇側溝下水の清掃＝❶五日に一回撒除❷二週に一回薬品の撒布◇その他の付❶回の内部周囲は二週に一回清掃❷家庭、商物の周囲にカ、ハエの発生源となるものを置かない❸水溜りを生くし池等には小魚を入れる。

常磐のバイク合格者

常磐署は十五日バイク運転許可試験を行ったが合格者は次のとおり
鈴木鎮夫、白石喜代司、金成泥次吉田栄次、湯井正美、布谷砥松、湯井二行、本郷勇吉、芳賀栄夫、篠館潤、薬地彦洋、磯上一郎、磯上照司、阿部栄作、高野新一、秋山武司、細井元義、渡辺司、川上勝雄、渡井信也、高木幸広、折笠正昭、佐藤袋夫、鈴木照蔵、山野

火の粉飛び危険

平ゴミ焼場の煙突

読者の声

私の近くにある平市営のゴミ焼き場は最近金網がとれたのか煙突から出る火の粉が飛んできて裏に干しておいたふとんが焼けてしまいました。丁度大夫がきますと、まえにも市当局にはねがいしたはずですが、市ではまもって何んの処置もしてくれない。こうした不便は私だけでなく町民の一人として痛感ある市の緊急をうながしたい。

平市衛生課＝北目にある煙突焼却場は十九年に建てたもので当時は付近に住むくはなかった。その後、市営住たくや民家が密集してきたのが原因である。市として近くこれを移転する計画を持っているのでその間煙突の上に金網を早急にかけます。

一村一農協を推進

平の七農協統合など

県石城市務所経済課では昨年に引き続き、ことしは平市内の七農協を統合するための指導を行なうことになった。

いま平市内には旧町村ごとに平、神谷、渡野、高久、勝間、草野、草井の七つの農協がある。ところが県の方針である健全な経営のためまえからみると同じ市内に七つの農協があるだけで健全な経営は弱体化するだけで健全な経営は認められない。合併工作を行なうことになったもの。なお昨年は常磐市の湯本、磐崎山農協のように合作決議寸前で下部組合員の反対で駄目になった例もあり、地元民の意見をよく聞くことと、合併までよく話合わせることなどを指導する方針でいる。

この様な「一村一農協」をスローガンに旧市町村にも呼びかけを行なう。「一村一農協」は旧人村だけで、磐城市は小名浜、玉川、江名、遠野、渡辺、泉の六農協もを併の話合いが進みながら町村合併のもつれから協の目を見ずにおらないし、内郷市の

五カ年計画で総合病院

磐城共立病院

内郷市御厩町にある磐城共立病院（島山胡夫院長）では総合病院をめざし、向う五カ年計画で本館の建築と内部諸施設の完備をはかることになった。総合病院五カ年計画の第一歩として眼科、耳鼻科を設置することになり、歯科の診療室を四階に建てるほか事務所と薬局などの管理棟は二階にもつていく方針。ベット数は現在の七百三十ベットから倍か三十ベットを増設する程度。さらに看護婦学校も設置して同病院の看護婦をここで養成して補充する。なお医師は二十二人から四十五人、看護婦も八十人から百五十人に増員して内容の充実に重点をおくことになった。

優良納組など表彰

24日磐城市で

磐城市では三十四年度優良納税組合長、組合、十年以上永年勤続者の表彰を二十日午前十時から小名浜一中講堂で行う。

◇十年以上勤続者＝東町八組組主荒遊、四十五組根本由太郎、四十六組根本由太郎、四十八組小野治、四十四の一組田口徳生、四十四の二組田口徳生、四十四の一組田口徳生、四十四の二組田口徳生、四十四の一組田口徳生、四十四の二組田口徳生